

保護者 様

川崎市立宮内小学校
校長 橋本 祐二

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果概要と 宮内小学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、本校では、学校教育目標に「おおらかに」「たくましく」「なごやかに」を掲げ、

〇一人ひとりが思いや願いを表現し、学び合う 〇自ら課題をもち、すすんで取り組む 〇お互いに認め合い、協力する
を目指して日々の教育活動に取り組んでおります。

このたび本年4月19日に6年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の結果をもとに、本校の教育目標の3つの柱「おおらかに」「たくましく」「なごやかに」から、「自ら課題をもち、すすんで取り組む」に焦点をあてて分析し、この報告書を作成いたしました。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることが調査の実施要領に示されております。本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。今後も保護者や地域の方々と児童の課題を共有し、児童一人ひとりに寄り添った教育活動の推進に努めてまいりたいと考えております。本調査の趣旨をご理解いただき、ご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 学校教育目標の実現に向けたこれまでの課題に対する取組

(1) 教科について

国語 「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、全国平均とほぼ同等の結果となりました。ただ、「書くこと」に関しては、課題が残る結果となり、目的や意図に応じて、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実」を図っているところです。

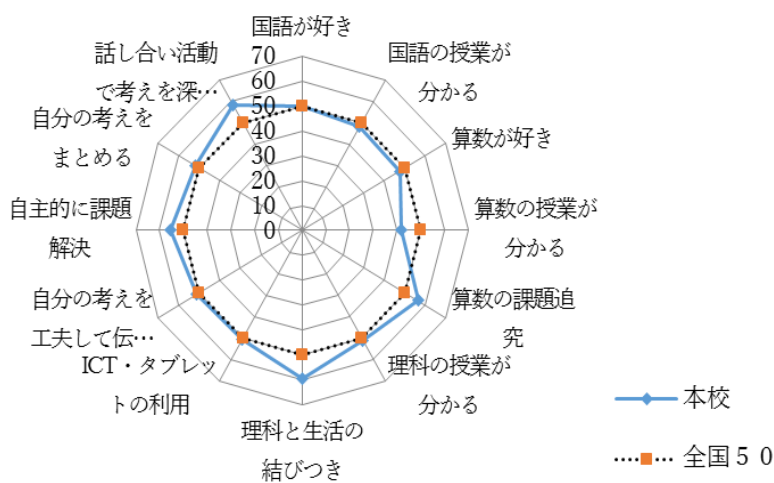
算数 校内研究（算数）のねらいにある「集団思考の手だてを研究する」から、まず児童の自力思考の力を育むことを心がけました。自力思考の力を育てていく中で「公式やきまりの訳を理解しようとする」「もっと簡単に解く方法はないか考える」など、追究していこうとする意欲を持つ児童が全国平均を上回る結果となりました。

理科 全体を通して全国平均とほぼ同等の結果となりました。「理科の勉強は好きですか」「理科の授業はよくわかりますか」等は全国平均を上回り、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られます。

(2) 児童生徒質問紙について

学校経営方針の柱にある「明日も行きたくなる学校」を目指してきました。規範意識や自己有用感、自尊感情等は、全国平均をやや上回っています。

*全国の結果を50とし、全国と本校の差を示したグラフです



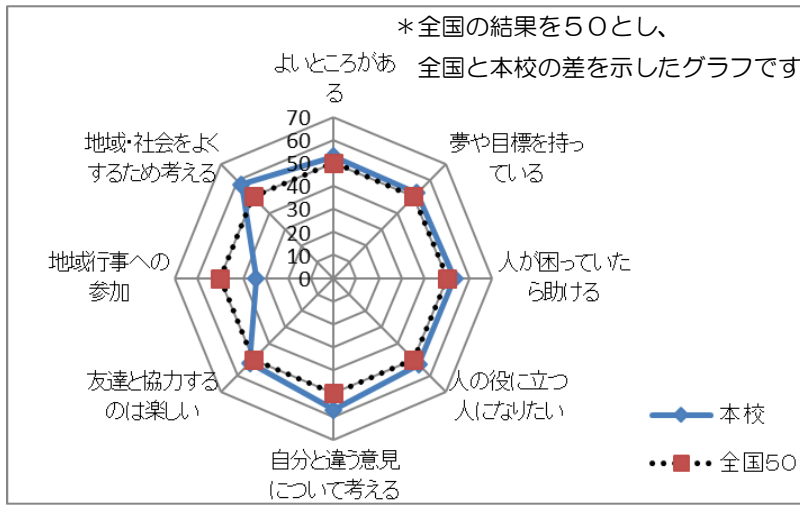
○「国語の授業が分かる」は全国平均と同様でした。算数においては「算数の授業がわかる」と回答した児童の割合が全国平均を下回ってしまいました。ただ課題に対して「より効果的な方法を考える」が全国平均上回っています。理科においては「学習内容と自分たちとの生活の結びつき」を意識しながら取り組んでいることがわかりました。

○「ICT 機器やタブレットの利用学習頻度」の割合は全国平均をやや上回っています。学習ツールとして定着してきた事がうかがえます。

○どの教科においても「自主的に課題解決に向かう」「自分の考えを工夫して伝える」「自分の考えをまとめる」などの項目で全国平均をやや上回り、学習に対して進んで考えていくことができきています。学習内容を精査し、さらに続けて取り組んでいきます。

○「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童が全国平均を上回っています。喜ばしい傾向です。

2. 質問紙調査結果の全体的な概要



- 「将来の夢や目標をもっている」「自分によいところがある」等、自尊心に関する設問において昨年度課題であった点が、今年度は全国平均をやや上回っています。少しずつ改善することができてきていると考えております。
- コロナ禍ということもあり、「地域行事への参加」の項目は全国平均より下回っていますが、「地域をよくするために考える」と回答した児童が全国平均を上回っており、地域に対しての愛情を感じます。
- 「自分と違う意見について考えることが楽しい」と回答した児童の割合は、80%以上であり、全国平均を大きく上回りました。違いを豊かさに結びつけて考えていることができています。

3. 教科に関する調査結果の概要

※本資料で示している数値は、各設問の「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。

〈 〉は本校の平均正答(回答)率 ()は全国の平均正答(回答)率を表す。

国語

「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」設問では、正答率が〈72.0%〉(68.4%)と全国平均より3.0ポイント上回っており、よい状況にあると捉えております。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」では文章中のひらがなを漢字で書き直す3つの設問中、正答率が全国平均より4.0ポイント下回っており、漢字を正しく使うことに課題があると考えております。

算数

「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」設問では、正答率が〈24.7%〉(21.4%)全国平均を上回っているという結果で比較的良好だと考えられます。反対に「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」の設問では、正答率が〈37.3%〉(48.0%)と全国平均を下回っております。場面に応じた数量関係を理解することができているものの、自分の考えを記述する点で課題があると捉えています。基本的な数量把握や計算が確実にできるとともに、理解できていることを適切に表すことができるようになるための指導を工夫していきます。

理科

「実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつことができる」設問では、正答率が〈71.3%〉(68.9%)と全国平均より2.4ポイント上回っており、よい状況にあると捉えております。これからも自分の考えをもちながら課題解決に取り組む授業を進めていきます。

4. 今後の取組

(1) 教科について

国語

目的に応じて自分の考えをまとめたり、条件に応じて書いたりする機会を増やすなど、自分の考えを形成すること、適切に書くことに向かう指導の充実を図ります。その際は、書くことへの抵抗感を軽減していくため、書く必然性のある課題の設定に努めます。漢字の習得は語彙の豊かさに結びつくものと考えております。漢字の意味を調べたり同音異義語を使って文や文章を作ったりするなど指導の工夫に努め、漢字のもつ意味を考えながら正しく使うことができるように指導していきます。

算数

場面を想起し数量関係をつかむことができる問題の正答率が比較的良好であったのは、校内研究で取り組んでいる「自力思考の力」が育まれている成果と考えております。これからも子どもたちの表現を大切にしながら授業を進めていきたいと思っております。

理科

課題を提示する際に生活に結び付けて考えていくことができるようにしていくなど授業改善を図りながら、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるように指導していきます。

(2) 児童質問紙について

質問紙

「人の役に立つ人間になりたい」「人が困っていたら進んで助けている」について、肯定的に回答した児童の割合が全国平均を上回っています。これは、様々な教育活動の中で「他者を思いやる心を育てる」ことを教職員が意識をして取り組んだ成果が表れてきたものと受け止めています。

本校の「キャリア在り方生き方教育」の目標である「自他のよさを出し合い、自ら考え行動することができる」力を育むために今後も自分自身を見つめる機会や成長を実感できる活動を取り入れていきます。

教育委員会から

宮内小学校では、算数の研究に継続的に取り組んでおり、課題解決の過程を大切に授業展開を行っています。子ども達の自力思考の力を育成することを意識した授業改善を進めてきたことで、算数だけでなく、他教科においても子ども達の力が向上してきています。友達と協力したり話し合ったりして、かかわり合いながら学習することの楽しさを味わい、友達を認め、大切にしようとする豊かな心が育ってきていると言えます。また、キャリア在り方生き方教育によって、児童の自己有用感を高め、自分から行動しようとする心を育てています。

中原区・教育担当